

日本語教師
のための

実践・ 作文指導

石黒圭〔編著〕

安部達雄, 有田佳代子, 烏 日哲, 金井勇人,
志賀玲子, 渋谷実希, 志村ゆかり, 武一美,
筒井千絵, 二宮理佳〔著〕



くろしお出版

日本語教師
のための

実践・ 作文指導

石黒圭〔編著〕

安部達雄, 有田佳代子, 烏 日哲, 金井勇人,
志賀玲子, 渋谷実希, 志村ゆかり, 武一美,
筒井千絵, 二宮理佳〔著〕



はじめに

大学院を修了し、初めて海外に渡る日本語教師に質問されて困ることがあります。「先生、今度現地の大学で作文を教えることになったんですけど、よい作文の教科書ありますか。」私の答えはいつも同じです。「いろいろあるんですけど、これ一冊でどの学習者にもOKと言える本はないですね。」日本に来た留学生にもよく同じ質問をされますが、やはり答えは同じです。この本で勉強すれば大丈夫という作文の教科書は見当たらないのです。

作文ほど独習が難しいものではありません。読解ならば、よい教材と辞書があれば自分で学べます。会話も、教材がなくても、気の合う日本人の友人がいれば、自然と上達します。ところが、作文は教材だけではどうにもなりませんし、教師のがわも高い専門性が必要です。作文は教室で学ぶのが一番なのです。

作文教室という環境をデザインするのは、ほかならぬ教師です。ところが、そのノウハウはいまだ確立されていません。教師一人一人が試行錯誤しているにとどまります。そこで、私たちは、そうした試行錯誤の営みをぶつけあい、高めあいながら、一冊の本にまとめることを目指しました。

本書をお読みになった方は、そのあまりに個性的な作文授業の方法に驚かれると思います。たとえば、第1部第1章の作文のテーマの選び方をご覧ください。「世の中に、タバコの良さをアピールしてください」「世の中はお金がすべてであるという主張をしてください」という型破りのテーマが出てきます。第2部第18章には、突然カラーページが現れます。三色ボールペンで添削された学習者の作文です。いずれも、一見奇をてらった方法に見えるかもしれませんが、本書をお読みいただければわかるように、じつに理にかなった教授法なのです。

立場が違う10名の教師が集まると、自分ではけっして思いつかない教え方に出会えます。熱意あふれる10名の教師の原稿に向きあった編者の私自身、ほんとうに勉強になりました。読者のみなさんもぜひ、独創的で理にかなった作文教室のデザインの方法の数々を、本書をつうじて共有し、日々の教育活動に生かしてください。そのことを執筆者一同心から願っています。

2014年9月

石黒 圭